

再 評 価 調 査 書

I 事業概要					
事業名	街路事業				
地区名	都市計画道路 本郷知立線				
事業箇所	知立市内幸町平田～東栄				
事業のあらまし	<p>(都)本郷知立線は、知立市の(都)知立環状線を起点とし、安城市を経て、岡崎市の(都)豊田西尾線までを結ぶ道路である。</p> <p>このうち当該事業区間では、現道である県道安城八ツ田知立線と名古屋鉄道三河線(豊田方)との踏切交差部が連続立体交差事業の鉄道高架取付区間であり、線路の高さが現況より大幅に高くなるため、現踏切部での通行ができなくなる。また、現道は幅員が狭く歩道もほとんど設置されておらず、歩行者及び自転車の安全確保が求められている。</p> <p>このため、「代替機能の確保」、「交通安全対策の強化」を主な目的として、連続立体交差事業とあわせて鉄道交差道路となるバイパス整備を実施するものである。</p>				
事業目標	<p>【達成(主要)目標】</p> <p>①代替機能の確保</p> <p>②交通安全対策の強化</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>				
計画変更の推移		事業採択時 (H21)	再評価時 (H28)	変動要因の分析	
	事業期間	H24～H35	H24～H35	—	
	事業費(億円)	14.8	14.8	—	
	経費内訳	工事費	1.5	1.5	—
		用補費	12.8	12.8	—
その他		0.5	0.5	—	
事業内容	バイパス事業 延長: 351m 幅員: 21m 車線数: 2	同左	—		
II 評価					
①事業の必要性の変化	1) 必要性の変化	<p>【事業採択時の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道は名古屋鉄道三河線(豊田方)と踏切にて交差しているが、連続立体交差事業に伴い現踏切部での通行ができなくなるため、現道機能を本路線に切替え、道路交通を確保する必要がある。 ・現道幅員が狭く歩道もほとんど設置されておらず、歩行者・自転車の安全確保が求められる。 <p>【再評価時の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業採択時と変化なし。 			
	判定	B	<p>A: 事業着手時に比べ必要性が増大している。</p> <p>B: 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。</p> <p>C: 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。</p>		
		<p>【理由】</p> <p>名古屋鉄道三河線(豊田方)の連続立体交差事業により代替道路が必要であり、また歩行者・自転車の安全確保が必要であるため、事業の必要性が高い。</p>			

②事業の進捗状況及び見込み	1) 進捗状況	【事業計画及び実績】 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> <th>H33</th> <th>H34</th> <th>H35</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">工種 区分</td> <td>調査・設計</td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>用地・補償</td> <td></td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>←</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">事業費 (億円)</td> <td>計画</td> <td colspan="3">9.5</td> <td colspan="3">9.6</td> <td colspan="3">0.6</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td colspan="3">4.6</td> <td colspan="3"></td> <td colspan="3"></td> <td colspan="3"></td> </tr> </tbody> </table> 【進捗率】 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">これまでの計画に対する達成状況</th> <th colspan="2">全体進捗状況</th> </tr> <tr> <th>計画 【①】</th> <th>実績 【②】</th> <th>達成率(%) 【②÷①】</th> <th>計画 【③】</th> <th>達成率(%) 【②÷③】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延長(km)</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0%</td> <td>0.35</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>事業費(億円)</td> <td>9.5</td> <td>4.6</td> <td>48%</td> <td>14.8</td> <td>31%</td> </tr> <tr> <td> 工事費</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0%</td> <td>1.5</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td> 用地補償費</td> <td>9.1</td> <td>4.3</td> <td>47%</td> <td>12.8</td> <td>34%</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>0.4</td> <td>0.3</td> <td>75%</td> <td>0.5</td> <td>60%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※用地取得の一部を先行予算で実施しており、面積ベースの用地取得率は31% 【施工済みの内容】 なし</p>															H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	工種 区分	調査・設計	←				→								用地・補償		←					→						工事								←					事業費 (億円)	計画	9.5			9.6			0.6						実績	4.6													これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況		計画 【①】	実績 【②】	達成率(%) 【②÷①】	計画 【③】	達成率(%) 【②÷③】	延長(km)	0.00	0.00	0%	0.35	0%	事業費(億円)	9.5	4.6	48%	14.8	31%	工事費	0	0	0%	1.5	0%	用地補償費	9.1	4.3	47%	12.8	34%	その他	0.4	0.3	75%	0.5	60%
			H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35																																																																																																																										
	工種 区分	調査・設計	←				→																																																																																																																																	
		用地・補償		←					→																																																																																																																															
		工事								←																																																																																																																														
	事業費 (億円)	計画	9.5			9.6			0.6																																																																																																																															
		実績	4.6																																																																																																																																					
		これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況																																																																																																																																			
		計画 【①】	実績 【②】	達成率(%) 【②÷①】	計画 【③】	達成率(%) 【②÷③】																																																																																																																																		
	延長(km)	0.00	0.00	0%	0.35	0%																																																																																																																																		
事業費(億円)	9.5	4.6	48%	14.8	31%																																																																																																																																			
工事費	0	0	0%	1.5	0%																																																																																																																																			
用地補償費	9.1	4.3	47%	12.8	34%																																																																																																																																			
その他	0.4	0.3	75%	0.5	60%																																																																																																																																			
2) 未着手又は長期化の理由	事業期間に変更なし。																																																																																																																																							
3) 今後の事業進捗の見込み	【阻害要因】 本路線と交差する名古屋鉄道三河線（豊田方）の連続立体交差事業を実施しており、鉄道を高架化するために本整備区間の一部を一時仮線として使用する必要があり、また鉄道が高架化され仮線踏切が除却されるまで完成形での整備を行うことができない。 【今後の見込み】 事業費ベースでは用地補償費 34%で進捗している。連続立体交差事業と合わせて、平成 35 年度に完了する見込みである。																																																																																																																																							
判定	B A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。 B：次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける） ○これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ・これまで事業長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 ・これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。 C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。																																																																																																																																							
	【理由】 連続立体交差事業の完了と合わせての事業完了となるため長期化するが、平成 35 年度に事業が完了する見込みである。																																																																																																																																							
III 対応方針																																																																																																																																								
継続	中止：上記①～②の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。																																																																																																																																							
IV 事後評価実施の有無と主な評価内容																																																																																																																																								
■対象（事業完了後5年目） □対象外 【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】 【主な評価内容】 ・周辺道路における交通状況の変化（交通量、旅行速度）を定量的に評価する。 ・事業区間における交通事故発生状況（事故件数等）を定量的に評価する。																																																																																																																																								

